

今月の写真 /JGS ニュースレター53号 (2020/令和2年12月配信)

宮城県女川産のアワビ養殖半形真珠

写真撮影・文：渥美 郁男

株式会社宝石科学アカデミー

(一般社団法人 日本宝石協会 会員)

アワビ養殖半形真珠(写真1) 重量 1.97g、直径約 13.5mm、高さ約 9.2mm、色調は実体色がグレー系でグリーンとピンクの干渉色が見られる。また半形真珠のドームが高いのも女川産の特徴である。養殖法は伝統的に食用となるエゾアワビなどを採取し、そのアワビの貝殻に外側から孔を開けて半形の核を入れて固定する。やがて母貝の外套膜から半形の核に向かって真珠層を分泌される。貝殻から切り取った半形真珠は通常養殖で使用した核を除去してその跡に樹脂のような物質を充填し、底辺部を貝殻(写真2)で裏打ちする。軟X線透過検査を行うと内部に半形状の核(写真3)のようなものが確認された。実際に裏面にある貝殻の裏打部分を外して内部を観察(写真4)するとドーム部の中心に半形の貝殻核がありその周りに樹脂が充填されていた。残念ながら現在女川ではアワビ養殖半形真珠の生産は行われていない。



写真1



写真2

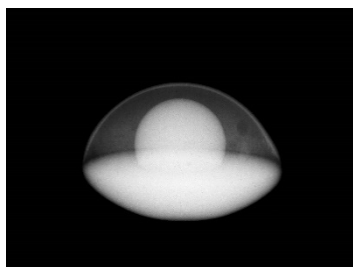


写真3



写真4